



2021年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月6日

上場会社名 株式会社サーラコーポレーション 上場取引所 東 名
 コード番号 2734 URL https://www.sala.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 グループ代表・CEO (氏名) 神野 吾郎
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 武川 裕樹 TEL 0532-51-1182
 四半期報告書提出予定日 2021年10月8日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年11月期第3四半期の連結業績（2020年12月1日～2021年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年11月期第3四半期	167,552	6.5	6,030	16.7	7,401	10.3	5,151	12.7
2020年11月期第3四半期	157,369	2.0	5,166	14.7	6,709	8.2	4,569	8.4

(注) 包括利益 2021年11月期第3四半期 5,256百万円 (18.3%) 2020年11月期第3四半期 4,441百万円 (14.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年11月期第3四半期	81.50	—
2020年11月期第3四半期	73.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年11月期第3四半期	186,741	66,094	34.7
2020年11月期	188,011	61,708	32.1

(参考) 自己資本 2021年11月期第3四半期 64,722百万円 2020年11月期 60,427百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年11月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2021年11月期	—	10.00	—	—	—
2021年11月期(予想)	—	—	—	12.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年11月期の連結業績予想（2020年12月1日～2021年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	220,000	3.9	6,500	9.4	7,000	△4.9	4,500	28.8	71.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年11月期3Q	66,041,147株	2020年11月期	66,041,147株
② 期末自己株式数	2021年11月期3Q	2,486,871株	2020年11月期	3,162,441株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年11月期3Q	63,210,581株	2020年11月期3Q	62,441,781株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き国内外の経済活動が抑制されるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

当社グループ（以下、「サラーグループ」といいます。）におきましては、2020年11月期を初年度とする第4次中期経営計画における重点課題「暮らしのSALAの新展開」「SALAの浸透」「変革とチャレンジ」への取組みに注力しました。2年目となる当期はコロナ禍のなか、中期経営計画に描いた目標に向かって積極的に各施策に取り組んでいます。当第3四半期連結累計期間におきましては、サラーエナジー株式会社は、法人向け太陽光発電システム第三者所有モデル「サラーのゼロソーラーサービス」事業を開始しました。本事業は、同社が発電事業者として自家消費型太陽光発電設備等の所有、維持管理等を行い、当該設備等で発電された電力をお客さまに供給するものです。また、サラーグループのITシステムを統括する株式会社サラービジネスソリューションズは、暮らしのSALA実現に向けて、2021年2月にマーケティング・プラットフォーム事業の株式会社サラーライフスタイルイノベーションを統合し、グループ一体となったIT・デジタル戦略を企画、展開する体制を整えました。新たな取組みの一つとして、2021年5月にサラーの暮らしサービスを一元的に分かりやすく表示するとともに、各種お問い合わせ手続きができるスマートフォン用アプリ「サラーのアプリ」をリリースしました。さらに、サラーグループが参画する豊橋駅前大通二丁目地区再開発事業は、2021年7月に「emCAMPUS（エムキャンパス）EAST」を竣工しました。2021年11月のグランドオープンに向けて、同施設1階の「emCAMPUS FOOD」及び同5階の「emCAMPUS STUDIO」の開業準備に取り組んでいます。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、プロパティ事業はホテルやレストランの利用客数の減少が続いたため業績が落ち込みました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高はエンジニアリング&メンテナンス事業は減収となりましたが、その他の事業が増収となったことから前年同期比6.5%増の167,552百万円となりました。利益面はエネルギー&ソリューションズ事業における増益に加え、ハウジング事業及びカーライフサポート事業が営業損失を解消したことから、営業利益は6,030百万円と前年同期比16.7%増加しました。経常利益は為替予約に係るデリバティブ評価益が縮小したものの、7,401百万円と前年同期比10.3%増加しました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、法人税等費用の減少により前年同期比12.7%増の5,151百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

エネルギー&ソリューションズ事業

売上高74,600百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益3,542百万円（前年同期比3.1%増）

原料価格の上昇に対応したLPガス、石油製品の販売価格の改定や、リフォーム関連商材の販売が堅調に推移したため売上高は増加しました。また、利益面は取引先工場の稼働率改善に伴い工業用の都市ガス販売量が増加したことにより営業利益は増加しました。

エンジニアリング&メンテナンス事業

売上高22,947百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益1,945百万円（前年同期比0.6%増）

建築及び土木部門の完成工事は増加しました。一方、設備工事及びメンテナンス部門の完成工事が減少したため売上高は減少しました。利益面は各部門において工程管理を徹底し売上原価の低減に努めたことから、営業利益は前年同期比で微増となりました。

ハウジング事業

売上高26,562百万円（前年同期比11.0%増）、営業利益230百万円（前年同期は営業損失175百万円）

住宅販売部門は注文住宅の販売棟数は減少しましたが、販売プロセスを見直し早期販売に努めたことから分譲住宅の販売棟数は増加しました。住宅部資材加工・販売部門は、既存取引先の事業エリア拡大に合わせて取引拡大に努めたことにより受注が増加しました。以上により売上高、営業利益ともに増加しました。

カーライフサポート事業

売上高11,295百万円（前年同期比24.5%増）、営業利益150百万円（前年同期は営業損失159百万円）

主力車種のモデルチェンジ効果などにより、アウディの新車販売台数は増加しました。また、フォルクスワーゲン、アウディともに中古車の販売台数が大幅に増加しました。以上により売上高、営業利益ともに増加しました。

アニマルヘルスケア事業

売上高23,239百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益702百万円（前年同期比7.0%増）

畜産部門、ペット関連部門ともに新商品及び重点取組み商品の拡販に努めました。また、コンサルティング営業の強化に継続して取り組んだことにより動物用医薬品の販売は堅調に推移しました。以上により売上高、営業利益ともに増加しました。

プロパティ事業

売上高6,448百万円（前年同期比113.5%増）、営業損失474百万円（前年同期は営業損失440百万円）

不動産売買部門において、2021年7月に竣工した分譲マンション「ザ・ハウス豊橋」の引渡しを開始したことから売上高は大幅に増加しました。利益面は、ホスピタリティ部門において新型コロナウイルス感染症の影響により宴会やブライダル、レストランなどの利用客数の減少が続いたため営業損失を計上しました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産は186,741百万円と、前連結会計年度末と比較して1,269百万円減少しました。これは主に、「有形固定資産」が1,477百万円減少したこと、「仕掛品」が1,370百万円減少したこと、「繰延税金資産」が818百万円減少したことに対し、「現金及び預金」が1,061百万円増加したこと、「商品及び製品」が680百万円増加したこと、流動資産の「その他」が531百万円増加したことによるものであります。

(負債)

負債は120,646百万円と、前連結会計年度末と比較して5,655百万円減少しました。これは主に、流動負債の「その他」が3,545百万円減少したこと、「短期借入金」が1,665百万円減少したこと、「未払法人税等」が782百万円減少したこと、「長期借入金（1年内返済予定を含む）」が646百万円減少したことに対し、「電子記録債務」が613百万円増加したこと、「支払手形及び買掛金」が368百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は66,094百万円と、前連結会計年度末と比較して4,386百万円増加しました。これは主に、「利益剰余金」が3,830百万円増加（親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により5,151百万円増加、配当の実施により1,320百万円減少）したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2021年7月7日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,169	23,231
受取手形及び売掛金	23,115	23,148
電子記録債権	1,329	1,483
商品及び製品	14,232	14,912
仕掛品	13,716	12,346
原材料及び貯蔵品	271	305
その他	5,333	5,864
貸倒引当金	△226	△191
流動資産合計	79,940	81,099
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,085	20,180
機械装置及び運搬具(純額)	9,318	9,028
導管(純額)	18,256	17,213
土地	34,096	34,034
建設仮勘定	1,329	1,066
その他(純額)	1,319	1,403
有形固定資産合計	84,404	82,927
無形固定資産		
のれん	413	350
その他	1,213	1,099
無形固定資産合計	1,627	1,450
投資その他の資産		
投資有価証券	7,725	7,809
長期貸付金	4,649	4,128
繰延税金資産	5,287	4,469
その他	4,809	5,287
貸倒引当金	△433	△430
投資その他の資産合計	22,038	21,264
固定資産合計	108,070	105,641
資産合計	188,011	186,741

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,855	21,223
電子記録債務	3,416	4,029
短期借入金	9,363	7,697
1年内返済予定の長期借入金	7,860	9,649
未払法人税等	1,148	366
賞与引当金	2,403	2,640
役員賞与引当金	5	5
完成工事補償引当金	55	60
工事損失引当金	137	85
ポイント引当金	278	278
修繕引当金	1	—
その他	16,437	12,891
流動負債合計	61,964	58,929
固定負債		
長期借入金	47,536	45,102
繰延税金負債	74	111
役員退職慰労引当金	209	192
株式報酬引当金	332	382
修繕引当金	110	125
債務保証損失引当金	193	193
退職給付に係る負債	12,420	12,259
その他	3,461	3,350
固定負債合計	64,338	61,717
負債合計	126,302	120,646
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,025	8,025
資本剰余金	25,169	25,186
利益剰余金	29,423	33,254
自己株式	△2,126	△1,650
株主資本合計	60,490	64,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	725	687
繰延ヘッジ損益	23	109
退職給付に係る調整累計額	△812	△890
その他の包括利益累計額合計	△63	△93
非支配株主持分	1,281	1,372
純資産合計	61,708	66,094
負債純資産合計	188,011	186,741

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
売上高	157,369	167,552
売上原価	114,543	122,361
売上総利益	42,826	45,190
販売費及び一般管理費	37,660	39,159
営業利益	5,166	6,030
営業外収益		
受取利息	82	63
受取配当金	115	85
デリバティブ評価益	1,068	601
持分法による投資利益	122	255
その他	376	551
営業外収益合計	1,766	1,558
営業外費用		
支払利息	132	115
その他	90	72
営業外費用合計	222	187
経常利益	6,709	7,401
特別利益		
固定資産売却益	30	64
投資有価証券売却益	164	95
補助金収入	8	—
特別利益合計	203	160
特別損失		
固定資産除売却損	25	41
投資有価証券評価損	9	—
減損損失	—	43
臨時損失	48	—
特別損失合計	82	85
税金等調整前四半期純利益	6,830	7,476
法人税、住民税及び事業税	1,614	1,406
法人税等調整額	534	785
法人税等合計	2,148	2,192
四半期純利益	4,681	5,283
非支配株主に帰属する四半期純利益	112	132
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,569	5,151

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
四半期純利益	4,681	5,283
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△392	△37
繰延ヘッジ損益	△16	85
退職給付に係る調整額	168	△76
その他の包括利益合計	△240	△27
四半期包括利益	4,441	5,256
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,328	5,121
非支配株主に係る四半期包括利益	113	134

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱いの適用)

当社及び一部の連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年12月1日至2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	エネルギー& ソリューションズ 事業	エンジニア リング& メンテナンス事業	ハウジング事業	カーライフ サポート事業	アニマル ヘルスケア事業
売上高					
外部顧客への売上高	73,244	23,266	23,936	9,075	22,382
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,809	3,686	8	13	0
計	75,053	26,953	23,945	9,089	22,382
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	3,435	1,933	△175	△159	656

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	プロパティ事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	3,020	154,926	2,443	157,369	—	157,369
セグメント間の内部売上高又は 振替高	389	5,906	1,090	6,997	△6,997	—
計	3,409	160,833	3,533	164,367	△6,997	157,369
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	△440	5,248	18	5,266	△100	5,166

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△100百万円には、セグメント間取引消去849百万円、全社費用△950百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	エネルギー& ソリューションズ 事業	エンジニア リング& メンテナンス事業	ハウジング事業	カーライフ サポート事業	アニマル ヘルスケア事業
売上高					
外部顧客への売上高	74,600	22,947	26,562	11,295	23,239
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,553	3,504	16	7	8
計	76,153	26,451	26,579	11,303	23,247
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	3,542	1,945	230	150	702

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	プロパティ事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	6,448	165,093	2,458	167,552	—	167,552
セグメント間の内部売上高又は 振替高	368	5,457	1,333	6,790	△6,790	—
計	6,816	170,551	3,791	174,342	△6,790	167,552
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	△474	6,096	118	6,214	△183	6,030

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△183百万円には、セグメント間取引消去844百万円、全社費用△1,028百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

アニマルヘルスケア事業において、事業用資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては43百万円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。